

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノ演奏法 I Piano performance method I		1年	前期	月曜日・2時限、3時限、4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
音楽表現 I				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡原志のぶ 石塚科之 メンサー肇子 藤野理恵子 中沢光恵 西尾幸子		本館3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
子どもの発達に音楽が果たす役割は非常に大きく、重要でもあり、保育園、幼稚園において音楽は生活の一部として取り入れられている。この授業は、保育の場でうたの伴奏や音楽的指導ができるために、基礎的な教則本を使用してピアノ技術を学ぶことを目的とする。ピアノ未経験者や初心者でも、個々のレベルに合わせた指導を個人レッスン形式で行い、音楽的基礎技術の習得をする。				
授業の到達目標				
①音楽を愛好し、音や音楽に対する興味、関心を高めることができるようにする。 ②楽譜を読む力を身につけ、音符や休符、記号、調の理解をし、ピアノの基本的奏法を習得することができるようにする。 ③幼児の表現活動を援助するために必要なピアノ技術を基礎から学ぶことができるようにする。				
授業の方法				
ピアノの技能には、初心者と経験者によって差が見られるため、個別指導を基本として個人レッスンとする。また、指導の際には、各学生の能力に応じた指導を行うため、授業内容は各学生によって異なり、以下には標準的(未経験者、初心者)の学生に沿った)授業計画を示すこととする。				
学習の成果				
①音や音楽に対する興味、関心を高めることができ、保育の場での音楽の必要性を理解することができる。 ②楽譜に対する理解を深め、ピアノの基本的奏法(特に初心者の学生はバイエル70～80番程度まで)を習得することができる。 ③幼児の表現活動にどのような音楽が必要か、またどんな援助が必要なのかを把握して、ピアノの基礎技術を習得することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当者別：各自の教材の選定と課題			
第2回目	右手のト音記号の音符と奏法 各自の練習方法について			
第3回目	左手のヘ音記号の音符と奏法(和音I、IV、Vの伴奏法)			
第4回目	音符の違い①(4分音符、2分音符、全音符)			
第5回目	音符の違い①(符点4分音符、符点2分音符、他)			
第6回目	運指法：指の運指と伴奏法(両手の奏法)			

第7回目	ハ長調の理解と各曲の習得①(バイエル40番～50番程度)		
第8回目	ハ長調の理解と各曲の習得②(バイエル40番～50番程度)		
第9回目	ヘ長調の理解と各曲の習得①(バイエル50番～60番程度)		
第10回目	ヘ長調の理解と各曲の習得②(バイエル50番～60番程度)		
第11回目	音楽実技試験課題曲の指導①(バイエル70番程度以上)		
第12回目	音楽実技試験課題曲の指導②(バイエル70番程度以上)		
第13回目	音楽実技試験課題曲の指導③(バイエル70番程度以上)		
第14回目	実技試験(各自発表)		
第15回目	試験曲の講評とこれからの課題(各自)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内での(レッスン)による理解度についても評価する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)		60%	担当教員全員の前で1曲演奏し、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員6名が全ての学生の演奏を採点し、その平均点を評価とする。(楽譜の理解、表現力がある等)
その他		10%	曲の進度による評価をする。
教科書と参考図書			
テキスト：初心者)の学生はバイエル教則本(全音楽譜出版社)、他の学生は進度に応じてブルグミュラー25の練習曲、ソナチネ、ソナタ(全音楽譜出版社)			
履修上の心得・ルール			
毎回、個人に適した曲が課題となり、次回の授業で担当教員にレッスンを受ける。短い時間でも、毎日、鍵盤に触れる習慣を身につけるよう心得てほしい。			